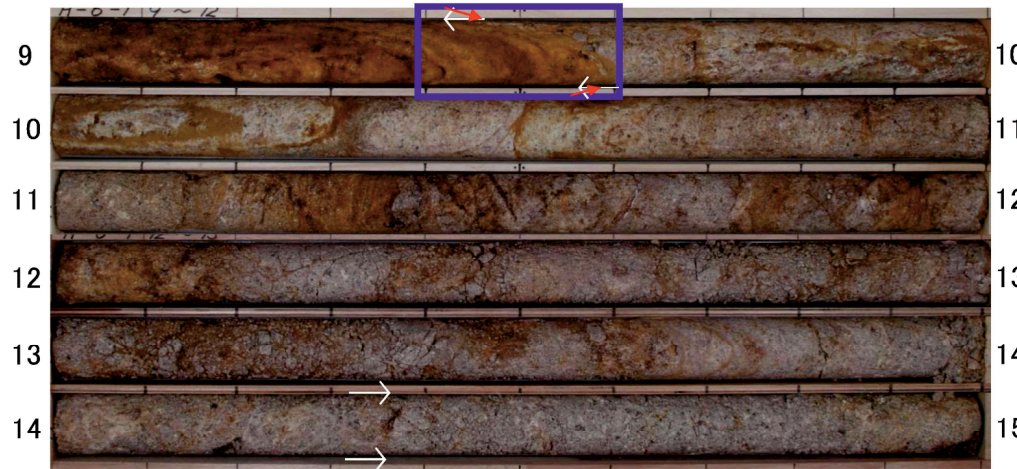


H24-H-6-1 深度9.58~14.36m 走向・傾斜 (No.7) の変更に伴い、条線方向 (No.8) を変更

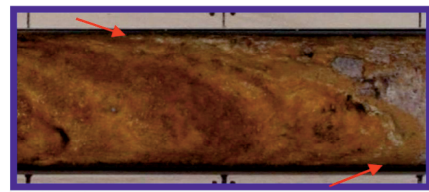
- 条線観察位置が最新活動面であることを残試料を用いて確認した。

コア写真



凡例  
 ← → 破碎部範囲※  
 ※: 写真上は白色で記載  
 ↓ 最新活動面

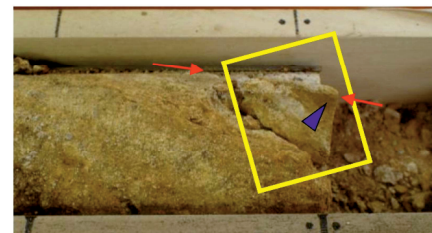
コア写真(条線観察時)



青枠部拡大

0 5 cm

凡例  
 ↓ 最新活動面



0 5 cm

※研磨片の作製に使用したため、9.50~9.60mのコア試料が欠如している。

凡例  
 ↓ 最新活動面  
 ▲ 条線観察位置

条線観察位置拡大



黄枠部拡大

1 cm

**1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響**

- ・断層ガウジの幅を3.5cmに変更 (No.9)

【理由】コア観察カードの記載を見誤っていた

- ・断層ガウジを示すカラーバーの幅を変更 (No.10)

【理由】断層ガウジの幅 (No.9) の変更に伴う変更

【断層連続性評価への影響】なし

**2. 変更箇所**

- a 断層ガウジの幅を「3.5cm」に変更 (No.9)
- b 断層ガウジを示すカラーバーの幅を変更 (No.10)



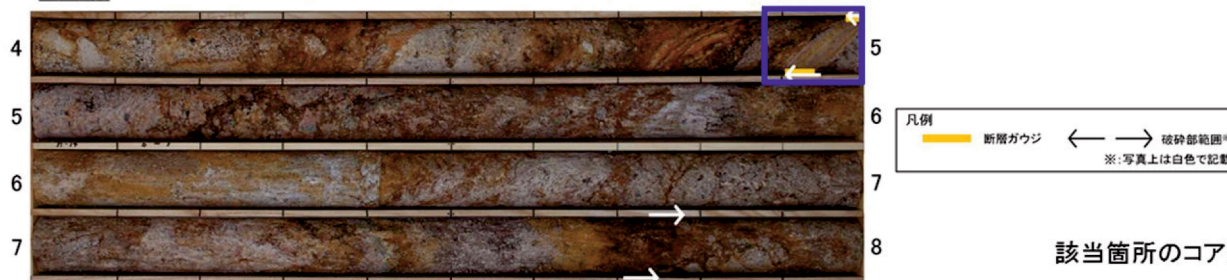
H24-H-14 深度4.93~7.81m 断層ガウジの幅 (No.9) を変更

- 従前提示していたデータでは性状一覧表に断層ガウジの幅を1.0cmと記載していたが、以下のことから、3.5cmが正しい値であるため、1.0cmから3.5cmに変更した。
- コアの再観察の結果、上端側からにぶい橙色と明黄褐色の粘土状部を繰り返し、断層ガウジの幅としては3.5cmであった。
- コア観察カードには全体の厚さ35mmの記載と、帯状の厚さ5~10mmの記載があり、従前提示していたデータである1.0cmは断層ガウジ内の縞状の各色調の帯の最大値を誤って記載していたと推定される。

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料(K断層 H24-H-14 深度4.93~7.81m)

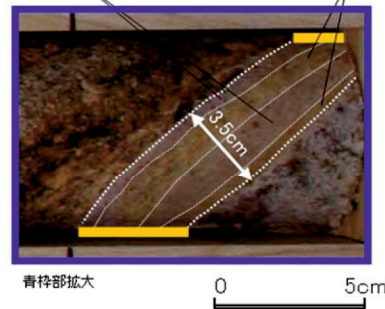
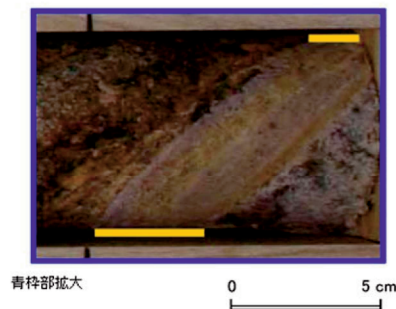
・実測した断層ガウジの幅は3.5cmである。

コア写真



該当箇所のコア観察カード

にぶい橙色(厚さ5~10mm) 明黄褐色(厚さ5~10mm)



4.93~7.81m: 破砕帯 (K断層)  
 4.93(主断面) ~ 4.95m: Hc-1  
 上端50%, 下端50%で、両者同 連続的でシロに連続。  
 φ1~2mmの石英粒と少量の粘土や軟弱な粘土。  
 色調は上部部から、にぶい橙(25R/4) ~ 明黄褐(10R/6)  
 ~ にぶい橙 ~ 明黄褐と120°平行な縞状で厚さ5~10mm  
 を繰り返し出ている  
 全体の厚さは35mm  
 帯状の厚さの記載

全体の幅の記載

帯状の厚さの記載

H24-H-14 深度4.93~7.81m 断層ガウジの幅 (No.9) の変更に伴い、断層ガウジを示すカラーバーの幅 (No.10) を変更

- 従前提示していたデータでは性状一覧表に断層ガウジの範囲を示すカラーバーを断層ガウジの幅「1.0cm」に合わせて、1cm分のカラーバーを付けていたが、以下のことから、断層ガウジの範囲は、深度4.93~4.97m (幅3.5cmの断層ガウジに該当する区間) が正しいため、それに合わせてカラーバーを修正した。
- コアの再観察の結果、深度4.93~4.97mの幅3.5cmの粘土状破碎部を断層ガウジであると判断した。

H24-H-14 深度4.93~7.81m:断層岩区分の評価

- 深度4.93~4.97mの「粘土状破碎部(Hc-1)」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- 深度4.97~7.81mの「粘土混じり岩片状破碎部(Hj)」と記載の箇所については、やや硬質~やや軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

破碎部性状の記事

●4.93~7.81m:破碎部 (K断層)  
 4.93~4.97m:粘土状破碎部 (Hc-1)  
 上端55°, 下端55°で、両者とも直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。色調は浅部側から、にぶい橙色~明黄褐色~にぶい橙色~明黄褐色とほぼ平行な線状で厚さ5~10mmで繰り返し出現する。幅3.5cm。  
 4.97~7.81m:粘土混じり岩片状破碎部 (Hj)  
 上端55°, 下端50°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭で連続する。径5~40mmの一部粘土化、一部硬さEないしDの花崗斑岩岩片と岩片が粘土化ないし砂状化した基質からなる。5.74~5.84m、6.17~6.42m、7.10~7.34m、7.50~7.69mはいずれも粘土化が著しい軟弱な粘土であるが、各粘土境界は漸移的でせん断面はもたない。全体の色調は風化の強弱に対応して、灰白色~明黄褐色~橙色~褐色など多様に変化する。

コア写真



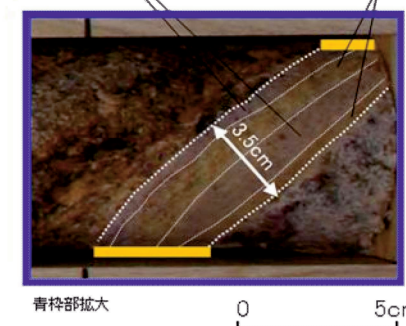
深度4.93~4.97mの連続性及び直線性が良い粘土

凡例  
 断層ガウジ ← → 破碎部範囲 ※ 写真上は白色で記載  
 最新活動面



にぶい橙色 (厚さ5~10mm)

明黄褐色 (厚さ5~10mm)



H24-B'-1 深度7.50~10.93m ブロックサンプル写真の方向の記載 (No.11) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

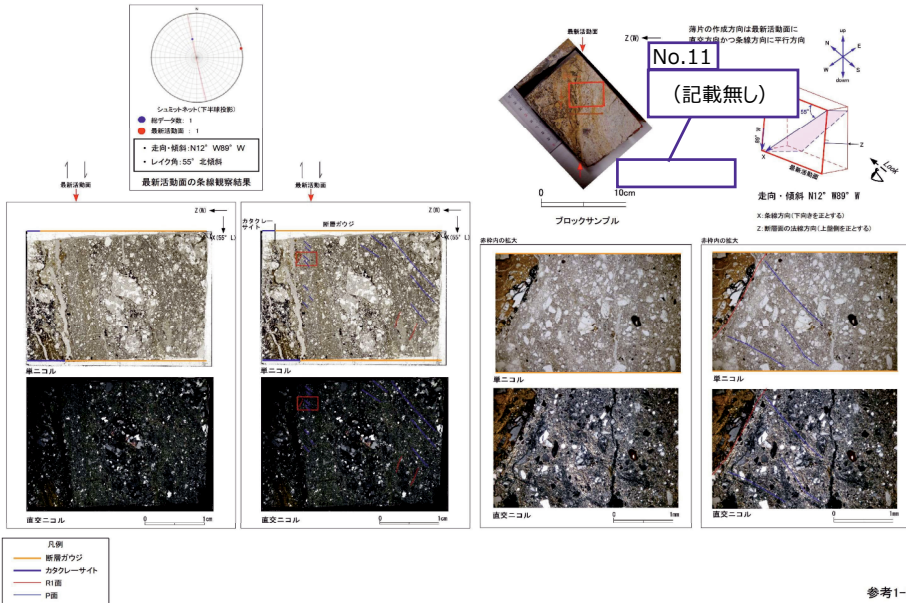
参考資料 1 薄片観察結果

参考1-53頁

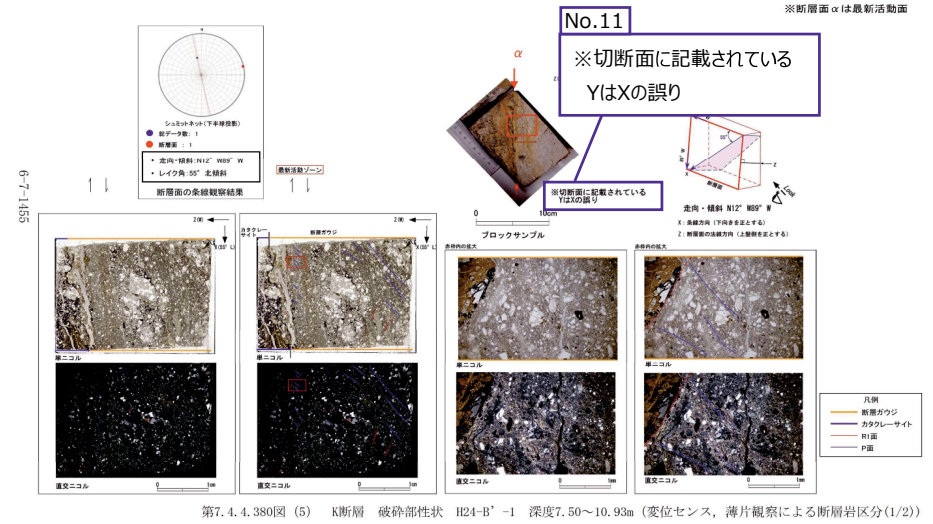
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

K断層 薄片試料観察 (H24-B'-1 深度7.91m)

H24-B'-1のボーリングコア(深度7.91m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。



・H24-B'-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。  
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められ、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。  
 > (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。  
 > (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。  
 > 岩片は少ない。  
 > (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



第7.4.4.380図 (5) K断層 破碎部性状 H24-B'-1 深度7.50~10.93m (変位センス、薄片観察による断層区分(1/2))

**1. 変更内容, 理由及び断層連続性評価への影響**

- ・最新活動面の深度を49.82mに変更 (No.12)

【理由】コアを再観察した結果, 深度49.82mが細粒部を伴い最も直線的であった

- ・最新活動面を示す矢印の位置を変更 (No.13)

【理由】最新活動面の深度 (No.12) の変更に伴い, 最新活動面を示す矢印の位置も変更

- ・薄片観察結果の全景写真に記載の岩片の種類を花崗斑岩に修正 (No.14)

【断層連続性評価への影響】なし

**2. 変更箇所**

- a 最新活動面の深度を「49.82m」に変更 (No.12) (ただし, フォームの見直しにより数値の記載なし)
- b 最新活動面を示す矢印の位置を変更 (No.13)
- c 薄片観察結果の全景写真に記載の岩片の種類を「花崗斑岩」に修正 (No.14)

H24-D1-1 深度49.20~49.91m 最新活動面の深度 (No.12) の変更、それに伴い最新活動面の深度を示す矢印の位置 (No.13) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-185頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

15.非モデル化破砕帯  
性状一覧表(13/19)

(No.最-3~最-8で説明)

観測位置 の番号	観測 深度 (m)	観測位置		方位	傾斜 角(度)	傾斜 率(%)	破砕帯の性状			破砕帯の 長さ (m)	破砕帯の 厚さ (mm)	破砕帯の 形状	破砕帯の 色	破砕帯の 状態	破砕帯の 備考																																																	
		上層深さ (m)	下層深さ (m)				破砕帯の 性状	破砕帯の 性状	破砕帯の 性状																																																							
①	49.84 (観測47)	49.20	49.91	N10E	70E	23.4	-	-	-	30R	正	正	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60																																				
②	49.20 (観測47)	49.20	49.91	N9W	70E	31.9	1.0	無	-	90	正	-	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
③	53.71 (観測47)	54.54	54.96	N46E	77E	35.5	1.5	無	-	75R	正	-	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100				
④	55.85 (観測47)	56.30	56.96	N46E	78E	35.7	1.4	無	-	-	正	-	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100									

No.13

(赤矢印位置)

b

b

凡例  
 最新活動面 ← → 破砕帯  
 断層ガワシ 断層の誘導物が認められる箇所 \*1:断層  
 \*2:断層

【破砕帯】  
 粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、  
 層化した粘土状破砕部、層化した砂状破砕部、層化した角礫状破砕部  
 の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平準さ】  
 平準：最新活動面が連続的なもの  
 非平準：最新活動面が連続するもの

参考2-185

(No.最-3~最-8で説明)

観測位置 の番号	観測 深度 (m)	観測位置		方位	傾斜 角(度)	傾斜 率(%)	破砕帯の性状			破砕帯の 長さ (m)	破砕帯の 厚さ (mm)	破砕帯の 形状	破砕帯の 色	破砕帯の 状態	破砕帯の 備考																																																	
		上層深さ (m)	下層深さ (m)				破砕帯の 性状	破砕帯の 性状	破砕帯の 性状																																																							
H24-D1-1 (観測47)	①-1	49.84	49.91	N10E	70E	23.4	-	-	-	30R	正	正	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60																																				
H24-D1-1 (観測47)	①-2	49.20	49.91	N9W	70E	31.9	1.0	無	-	90	正	-	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
H24-D1-1 (観測47)	①-3	49.84	49.91	N10E	70E	23.4	-	-	-	30R	正	正	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60																																				
H24-D1-1 (観測47)	①-4	49.20	49.91	N9W	70E	31.9	1.0	無	-	90	正	-	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
H24-D1-1 (観測47)	①-5	53.71	54.96	N46E	77E	35.5	1.5	無	-	75R	正	-	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100				
H24-D1-1 (観測47)	①-6	55.85	56.96	N46E	78E	35.7	1.4	無	-	-	正	-	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100									

No.13

(赤矢印位置)

b

b

凡例  
 最新活動面 ← → 破砕帯  
 断層ガワシ 断層の誘導物が認められる箇所 \*1:断層  
 \*2:断層

※1 断層区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載  
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載  
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(面成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)  
 -(上記以外): データを取得していない箇所

第7.4.4.112図(1) 破砕帯性状一覧 (024-D1-1)

6-7-1587



H24-D1-1 深度49.20~49.91m 最新活動面の深度 (No.12) の変更、それに伴い最新活動面の深度を示す矢印の位置 (No.13) を変更  
薄片観察結果の全景写真に記載の岩片の種類 (No.14) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料1 薄片観察結果

参考1-214頁

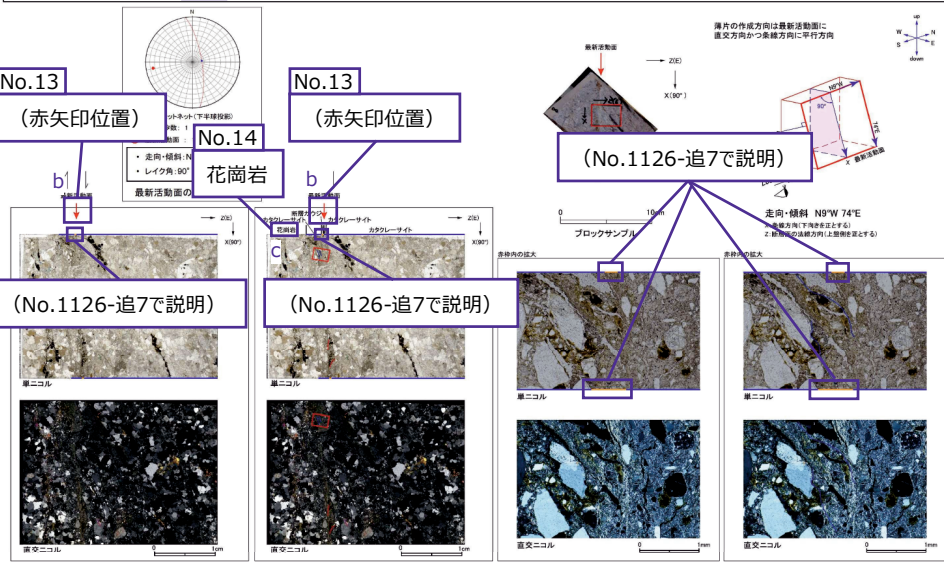
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

No.12 a

(フォーム見直しにより数値の記載なし)

非モデル化破碎部 薄片試料観察(H24-D1-1 深度49.84m) a

H24-D1-1のボーリングコア(深度49.84m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、正断層成分が卓越する。

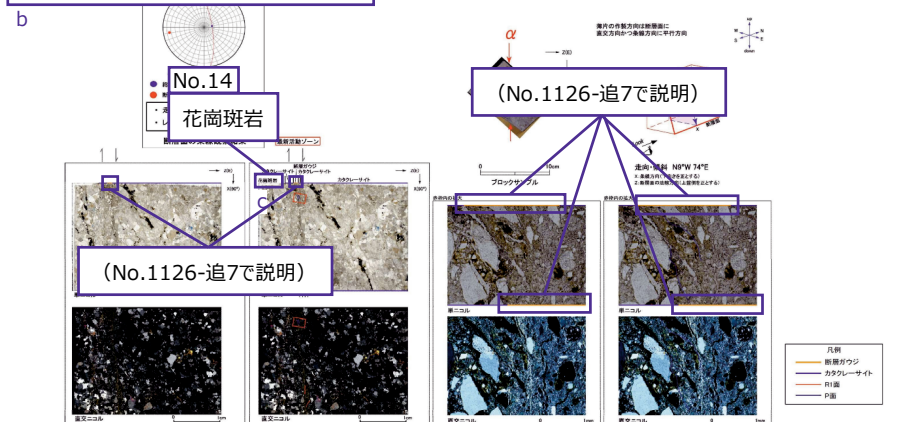


参考1-214

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。  
・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。  
・(断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。  
・(断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。  
・(断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。  
・岩片は少ない。

No.13

(フォーム見直しにより矢印の記載なし)



第7.4.4.249図(3) 破碎部性状 H24-D1-1 深度49.20~49.91m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))